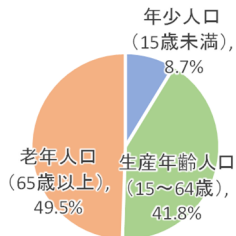


# 奥町 (おくちょう)

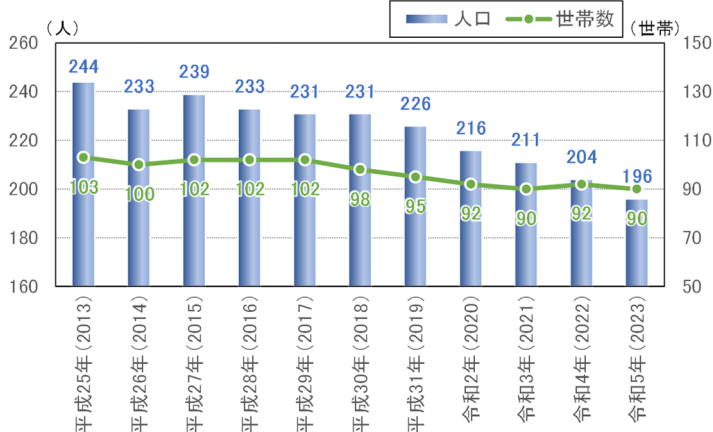
## 人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	196人
世帯数	90世帯
高齢化率	49.5%

### 年齢別人口割合



## 人口・世帯数の推移 (過去10年間)



## 区域の概要

**立地** 集落は、諸寄から南側に入り込んだ谷間に位置する。大栃川沿いの奥町、二又川沿いの京屋・宝木の3つの集落からなる。

**地名由来** 古くから「奥諸寄」と呼ばれてきたことによる。

**歴史等** 元龜3年(1572)に鳥取城主武田高信が芦屋城を攻めたととき、京屋に陣を置いたと言われている。近世は諸寄村に含まれる。近世の諸寄村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保12年(1727)からは幕府領となった。元禄11年(1698)の字奥諸寄の家数は30軒。

諸寄村の幕末頃の絵図(北村二郎氏所蔵・諸寄小学校百年誌所収)から、かつて大栃川は奥町の村中(金指神社南脇)を流れていたことが知られる。度重なる洪水により川替えが叫ばれるなか、大正7年(1918)9月の大洪水を受けて、川替えが進められ、大正時代末には現在のように付け替えられた。この川替えの際に、金指神社横に井戸場が整備された。集落の中を久美浜と鳥取を結ぶ浜街道と岩美町長谷に抜ける街道が通っており、道標が建っている。

また、砥石を産した砥石山(字砥谷)があり、近世には名山諸磯砥(もろいそといし)として廻船に積み、諸国に運ばれた。昭和5年(1930)にもマップ(坑道)6本があり、年間10万丁を生産したと伝える。

## これまで把握している文化財

文化財の件数 38件 (うち指定等文化財 0件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	2	12
		石造物	2	
		工作物・その他の構造物	0	
	美術工芸品	彫刻	0	
		絵画	0	
		工芸品	6	
		書跡・典籍	0	
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	2	0
		音楽	0	
		演劇	0	
		工芸技術	0	
		その他の無形文化財	0	
		信仰の場	7	
		祭具	0	
		民具	0	
		その他の有形の民俗文化財	1	
		年行事・民俗芸能	2	
民俗文化財	有形の民俗文化財	民俗技術	0	14
		食文化	0	
		民間説話・俗信	4	
		その他の無形の民俗文化財	0	
		散布地・集落跡・生産遺跡	2	
	無形の民俗文化財	古墳・その他の墓	0	
		城館跡・寺社跡	3	
		街道・古道等	4	
		戦争遺跡	0	
		その他の遺跡	0	
記念物	遺跡	山岳・高原・丘陵	0	12
		海岸・海浜・島嶼	0	
		河川・滝・渓谷・湖沼	1	
		公園・庭園	0	
		その他の名勝地	0	
	名勝地	動物	1	
		植物	1	
		地質鉱物	0	
		生活・生業・風土により形成された景観地	0	
		文化的景観	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



奥諸寄の道標



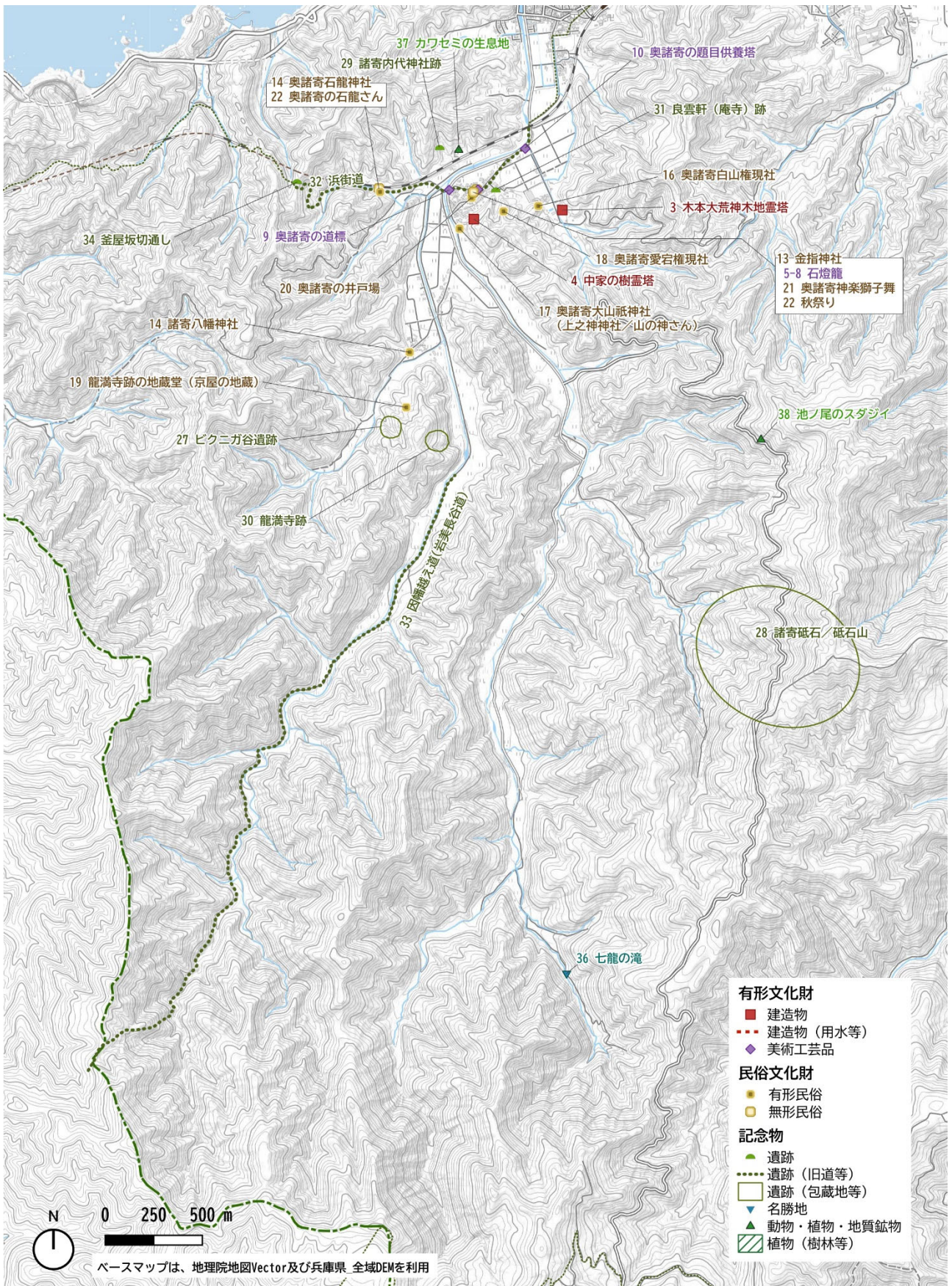
奥諸寄神楽獅子舞



諸寄砥石

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

### 3-02 奥町

#### 文化財の一覧

##### ■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	西川家住宅	明治期の木造二階建、瓦葺、農家建築。
	2	松上家住宅	明治期の木造二階建、瓦葺、農家建築。
石造物	3	木本大荒神木地霊塔	松堀の西小学校・白山権現社の反対側の山裾にある。江戸時代に建てられた木地師の信仰に関する碑。形は五輪塔と宝篋印塔を組み合わせたような高さ2mを越す大きな石造物で、重ねた石の種類は異なる。上部に梵字があり、その下が笠の大きな自然石、立方体の塔身の部分に「木本大荒神木地霊塔」の文字が彫りこんである。
	4	中家の樹霊塔	中家（ナカネ）の墓地にある樹霊塔で、木の霊を祀る。中家は旧姓谷村家（南北朝時代）で、その後田中姓を名乗った際の通称である。中家は奥諸寄の山や木を一手に支配していた山林業者である。建立年は不明。

##### ■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
工芸品	5	金指神社の石燈籠 (1774年建立)	安永3年(1774)10月建立。石材は地場産のもの。四角型。竿は角柱。基礎の上端と中台の下端にはそれぞれ四葉の素弁の蓮華弁を各隅に一葉ずつ配するが、いずれも低平である。火袋は後補のもの。
	6	金指神社の石燈籠 (1918年建立)	大正7年(1918)6月建立。順徳丸・寺垣庄太郎寄進。同好のものが、同人によって諸寄の八坂神社にも1基寄進されている。石材は砂岩。基礎は円形で、上端は膨らみをもった傾斜で二段の段形につくられている。竿は太い円柱で三節をつけており、火袋の幅よりも僅かに細い。中台は円形で、下端と側面を一つの面とする蓮台式につくられている。全高260cm。
	7	金指神社の石燈籠 (建立年不明)	直江津信濃屋増五郎の寄進によるもので、軒裏には隅木を彫る。撥型の竿の正面に、「奉燈」と刻してあるが、「燈」の字は「登」を上配し、その下に「火」を配している。
	8	金指神社の石燈籠(明治期建立)	明治期に建立された石燈籠
	9	奥諸寄の道標 (1843年建立)	柏谷橋の脇に建つ。「右いなば道」「天保十四年(1843)」と刻まれた道標石仏。かつて諸寄から奥町を通って因幡国へぬける道が主要な街道であったことを物語る。
	10	奥諸寄の題目供養塔 (1951年建立)	昭和26年(1951)建立。西小学校バス停前の碑。「南無妙法蓮華經」の題目が刻まれている。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	11	大上家文書	幕末から明治の鍛冶関係文書。
	12	奥諸寄白山神社の棟札等	元禄5年(1692)、宝暦3年(1753)、天明3年(1783)、寛政7年(1795)、文化12年(1815)などの棟札10枚をはじめ、祭礼用神矛3本、奉幣多数などが残り、神社改築の歴史などを知ることができる。

##### ■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	13	金指神社	祭神は大己貴尊。太古、神社付近は洪水に悩まされていたのを、大己貴命が切り開いて沼地を平地にした。御神徳を敬仰して一社を創立し、神霊を鎮祭した神社と伝える。明治6年(1873)10月に村社に列したが、大正14年(1925)10月21日の村内大火災で類焼し、昭和3年(1928)に復興・再建された。境内社には、かつて三柱神社(須佐之男命)、稲荷神社(保食神)、八幡神社(品陀和気命)、依那神社(木花咲屋姫命)、天満神社(菅原道真)があった。

分類	番号	名称	概要
信仰の場	14	諸寄八幡神社	祭神は神功皇后、応神天皇。鎌倉時代の創立と思われる。松上家が当地に居住していた頃、神社と龍満寺の前身の京屋にあった寺を創立したと思われる。近代社格は無格社。
	15	奥諸寄石龍神社 (石龍さん)	龍神を祀る祠。ご神体の奇形の大岩を覆うように祠が建てられており、中に4基の燈籠と供物をのせる祭壇が設けられている。漁師は豊漁をもたらす海の神として信仰し、農家は日照りの時に雨乞いを行ったという。
	16	奥諸寄白山権現社	平家方の松森越前守通兼が壇ノ浦の合戦で敗走し、その七代後の光信が応永23年(1416)源氏上杉金吾の勢力と戦って敗れ、長門国海士が瀬戸(山口県豊浦郡豊北町)より但馬国諸寄松堀に落人として流れ、それを子孫が祀ったものと思われる(神社境内の奉納札(明治23年(1890)3月3日)より)。金指神社、八坂神社、為世永神社、本町の神社祈願所とあわせて五社といわれ、村人に「五社参り」の信仰がある。また、社ははじめは北向きであったが、沖を通る船が安全を祈って帆を少し降ろして礼拝し、それを怠ると急に船足が遅くなったため、海が見えないように南向きに再建したと伝える。漁師からの信仰があつい。
	17	奥諸寄大山祇神社 (上之神神社/山の神さん)	奥諸寄の裏山はかつて中家(ナカネ)の山で、中家の墓地の上側にあったが、江戸時代末期に現在地に移る。山で働く人たちの守り神であった。江戸時代末期に砥石が発見されて以降は、砥石山で働く人たちが主となって奉祀した。昭和13年(1938)頃まで砥石山の火薬倉庫が置かれていたが現在は無い。祭りの当日は山の神さんが木の数を数えて見回りをするため、山に入ると木に数えられて帰れなくなるので、絶対に山には入らないという言い伝えが残る。
	18	奥諸寄愛宕権現社	江戸中期より以前から愛宕さんを祀っていたが、鉄道敷設に伴い、ミソガ谷・内代の周辺にあった墓地を愛宕山に移動したことにより、神社が墓地の下になったため、現在の村の裏山の地に移された。愛宕山には神社跡がある。古文書によると、文化年代に奥諸寄から2人ずつ、村の長役が京都市右京区上嵯峨の北にある愛宕山愛宕権現に参拝し、お礼をいただいて持ち帰り、町内ごとに寄って火災の難除けをしたことが、町内籠もりのはじまりと思われる。現在、社の中には何も残っていない。
その他の有形の民俗文化財	19	龍満寺跡の地蔵堂 (京屋の地蔵)	龍満寺は、もとは字京屋谷にあり、その跡に地蔵尊を勧請して地蔵堂が建てられている。
	20	奥諸寄の井戸場	大正7年(1918)9月15日の大洪水後、川替えが行われ、大柄川から集落内への引水の大工事が行われた。金指神社脇の小川は、この時につくられたもので、村人は飲料水、洗い物、洗濯など、この小川の恵みを受けるとともに、井戸端会議の場にもなっていた。

#### ■ 民俗文化財/無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	21	奥諸寄神楽獅子舞	9月9日の金指神社秋祭で奉納される。現在は、岩戸の舞、門付が奥町獅子舞保存会により伝承されているが、かつては曲芸、やぐるま、岩戸の舞、しんぐるま、玉獅子、狂い獅子が演じられていた。
	22	金指神社秋祭り	9月9日に金指神社で行われる。神楽獅子舞が奉納される。
民間説話・俗信	23	奥諸寄の石龍さん	※『はまさかの民話(Ⅰ)』(平成元年、浜坂町公民館発行) p35 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p155 参照 ※『奥諸寄の村の起こりと歩み』(平成14年、西川悠紀恵編集) p9 参照
	24	謎の大屋敷	※『奥諸寄の村の起こりと歩み』(平成14年、西川悠紀恵編集) p30 参照
	25	諸寄の石槽	※『はまさかの民話(Ⅰ)』(平成元年、浜坂町公民館発行) p35 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p155 参照

### 3-02 奥町

分類	番号	名称	概要
民間説話・俗信	26	土のこ (つち/つちぐちなわ)	※『奥諸寄の村の起こりと歩み』(平成14年、西川悠紀恵編集) p33 参照

#### ■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	27	ビクニガ谷遺跡	平安時代の散布地。尾根の中腹に平坦面がある。地下20cmの所から須恵器片が出土。
	28	諸寄砥石／砥石山	砥谷と呼ばれる谷は、かつて上質の砥石として広く知られた「諸寄砥石」の砕石地。江戸期から明治期には海路で、明治45年(1912)以降は陸路で全国に出荷された。現在はくずに覆われているが、砥石を切り出した穴(マブ)が残る。
城館跡・寺社跡	29	諸寄内代神社跡	字内代の鉄道線路の山側に神社跡がある。創立年月は不明。平田家一族や川原家の一部、7~8軒が明治初期までであったので、おそらくこれらの家々が氏子であったと思われる。
	30	龍満寺跡	近世の寺院跡。平坦面がある。
	31	良雲軒(庵寺)跡	松森光信が応永23年(1416)に源氏上杉金吾と戦って敗れ、諸寄松堀に落人として流れ、平家再興を願うも志ならず、年月は流れ、松堀の北に寺を創立した。その部下八人程は諸寄に移住したとされる。字松堀の石船辺りの田畑は落人家の開墾・開拓したものであることが、奥諸寄に残る田畑売買や移動等の文書にみえる。諸寄に移住した際に、奥諸寄に残したものが尼寺の良雲軒である。
街道・古道等	32	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記(第5次)などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
	33	因幡越え道(岩美長谷道)	久美浜から鳥取間の浜街道(因幡道)の脇街道として、諸寄奥町から大栃川の支流・二又川沿いに岩美町長谷に越えて山陰道に抜ける「仮称 因幡越え道(岩美長谷道)」がある。因幡道の居組以西は「牛馬も越せぬ難所」と言われ、かつては山陰道へ抜ける脇街道として、仮称(因幡越え道)岩美長谷道が使われていた。戦国期に因幡の武田氏が芦屋城を攻める際、この峠を越えて京屋に陣を張ったと言われている(奥町のあゆみ)。因幡(岩美町長谷)側の山頂には、琴弾城跡・カネがハタ城跡が確認されている。
	34	釜屋坂切通し	現在は杉木立が荒れたままになっており、山裾に登る途中、炭焼き窯跡らしきものがある。山陰本線のトンネルの真上辺りに位置する。
	35	奥町の一里塚	浜街道の一里塚。柏谷橋付近に位置する。天保14年(1843)建立の地蔵がある。

#### ■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
河川・滝・溪谷・湖沼	36	七龍の滝	海岸線から約5km離れた大栃川上流(標高175m)にある滝。水量は多くないが、落差およそ15mの二段の滝。

## ■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
動物	37	カワセミの生息地	令和元年（2019）頃よりカワセミの飛来を確認（最大3羽）。川に止まり木（鉄製：1ヶ所）を設置。
植物	38	池ノ尾のスダジイ	千谷～諸寄を結ぶ森林基幹林道沿いにある。諸寄側入口より約3kmの地点にあり、林道工事中に伐採されかけたが、諸寄区民の熱意で残された。日本海、大山、隠岐の島を見渡す素晴らしいロケーションである。

## 自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

- ・『奥諸寄の村の起こりと歩み』（平成14年、西川悠紀恵編集）

